特定非営利活動法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報96号 平成28年5月1日	NPO法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴 会 報 発行人/理事長 馬 場 英 男 〒625-0036 舞鶴市浜 247 番地 (3 階) TEL/090-3281-7539 FAX/0773-63-9764 E-mail brick@iris.eonet.ne.ip
「NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ http://www.redbrick.jp/フェイスブックページ https://www.facebook.com/赤煉瓦倶楽部舞鶴-1575484726053495/?fref=ts	

# 目 次

1 平成28年度事業予定について

事務局

「キレイなものはキレイ」

小野 章さん

2 「佐世保、レンガ ヘトヘト記」

佐世保市 末竹康春さん

5 「ドイツ ロストック市との文化芸術交流に向け」

馬場
英男

3 連載『我が国の近代土木遺産 8』

こいけりかさん

6 その他 •編集後記

# 1. 平成28年度事業について

事務局

- ◆ 4月23日(土) 第5回市内赤煉瓦施設見学会 [舞鶴市行永地区倉梯防空砲台跡、瀬崎地区博奕岬電灯機関舎跡] 27名の参加で無事終了しました。 次号で報告します。
- ◆ 6月12日(日) 平成28年度法人通常総会 開催場所:舞鶴市字浜247番地 法人事務所にて、午後2時から。 総会出欠ハガキを同封しますので、ご記入いただき投図してください。
- ◆ 7月 2日(土) 第6回近代化産業遺産視察旅行 [大阪市/中央公会堂・綿業会館・適塾・毛馬閘門・川口基督教会・ジーライオンミュージアム・海岸通ギャラリーCASO] 参加費 会員 7,000 円(一般 8,000 円) <u>定員 25 名</u> 7 時 30 分東舞鶴駅前マイクロバス出発 → 大阪視察 → 19:30 頃東駅前着予定申込締切 2016 年 6月1 5日、事務局 TEL、FAX、Mail にて
- ◆ 10月1日~7日 ドイツ7日間の旅 ~ベルリン・ロストック・ハンブルク~

~本場のホフマン窯視察・ロストック市民と親善交流~ JTB 西日本・添乗員、現地ガイドが案内します 関西国際空港発着 旅行代金 大人1人 約35万円(2名1室利用) [会員助成検討中]
詳細は事務局にお問合わせ下さい

## 2. 「 佐世保、 レンガ ヘトヘト記 」

## 長崎県佐世保市山手町 末竹康春(赤煉瓦ネットワーク会員)

今から20年前、鎮守府時代の海軍倉庫が解体され、赤レンガを大量に入手しました。昨年この廃材レンガで建物がやっと完成、この作業工程を報告します。

幸運だった事(苦労の始まり)

平成3年から4年にかけて、アメリカ海軍佐世保基地内で明治30年ころの赤レンガ倉庫群が大量に解体されました。保存を働きかけていたのですが、ガッカリしていたところ、解体業者から廃材レンガを置く場所があれば持ってくる、との連絡があり10トンダンプが進入できて大量の蓄積ができる所を大至急探していましたが、そんな簡単に見つかりません。あきらめかけていたら、同じ街づくりのメンバー 白濱さんから私の工場の片スミに置いていいと話があり、割れたレンガや基礎石などおおよそ20トンくらい入手できました。

#### 作業

白濱工業の敷地には廃材レンガが山となっていて、その山に立ちましたら量の多さに蒼くなりました。ノンビリしてはいられませんのでホームセンターから中型・大型ハンマー、タガネ、バール、ゴーグルを購入して簡単な台座にレンガを載せ、接着メジを取り始めました。 当時、佐世保市消防局に勤めていましたが、非番日、公休、休暇はほとんどメジ削りでした。10年作業を続けましたらきれいに片づき、使える赤レンガが13,000 本程取れました。

#### 土地の購入

メジ削りにメドが立ち始めた平成7年ごろから建物用の土地を探し始めましたが、まとまりかけてもご破算になったり、断られたりと、 佐世保市内を西へ東へ探し求めて、5年程たったころ、山手の見晴らしのいい場所を購入する事ができました。

#### 建築について

建物は平屋で切妻、丸窓、レンガはイギリス積みと決めていましたので、話を聞いてくれる瀬戸建設さんに発注、現在にいたっています。 おわりに

なるべく簡潔に書きましたが、日々のレンガ目地削りといい、土地の境界について話し合いといい、職人さんへのイギリス積みの説明といい、その他にも沢山むつかしい事がありました。ヘトヘトになりましたが得るものも大きかったと思っています。















(平成28年1月8日 赤レンガ建物にて)

# 3. 連載「我が国の近代土木遺産8」 ~ ドボクイサン重箱の隅 ~ こいけりか (特別会員 No.87、(株)奄美群島環境文化総合研究所代表取締役)

独特な風情を漂わせる旧い土木構造物は多々あるが、鉄道関連の土木遺産は、その最も顕著なものの1つではないだろうか?少し以前、 波止場や埠頭に敷設された貨物用の引き込み線は、何れの港町でも目にしたように思える。また、旅客線より貨物線が港の風景との相乗効果で、どこか荒涼としながらも働く構造物の持つ風情が高まる感がある。

舞鶴にも舞鶴線から分岐し、明治37(1904)年、国際商業港の舞鶴港まで延伸した「海舞鶴線(舞鶴港線)」と大正8(1919)年に開業し、 海軍鎮守府への兵員や資材の輸送を担った「中舞鶴線」があった。加えて、日本板硝子や日之出化学等の民間企業の貨物輸送に専用線が敷設されていたことも分かる。

廃線になってしまった鉄道は、路面に敷設されたレールが撤去されると、町なかを歩いていても、その痕跡を見つけることが少し難しくなる場合が多いが、時として周辺に残された小さな手がかりや遺構を見つけることで、そこがかつて鉄道の軌道敷きであったことをうかがいができる。







画像1緩ハカーブの平坦な未舗装路

画像2廃線周辺で様々に転用される枕木

画像3鉄道用地を示す用地杭

画像①は、一見何の変哲もない長閑な砂利道だが、緩やかなカーブと平坦に整地された路面、横断勾配は片勾配で、砂利道の中央に少し 草が生えているものの、自動車の通行で生じる轍が見られない等の廃線の特徴が残っている。列車はきついカーブを曲がることができず、 路面は平坦に整地し横断勾配を片勾配にしなければ、枕木の設置とレールの敷設ができないのだ。枕木は、耐久性の高い横種や防腐処理が 施された木材が使われるため、廃線後もエクステリア素材として柵や庭の敷材に人気がある。画像②は、良く見かける枕木から柵への転用 例である。画像③の用地杭に彫られた「工」の字は、その土地が鉄道用地であることを示す「工(こう)の杭」ともいわれる鉄道用地杭である。旧工部省の「工」の字に由来し、レールの断面にも似ていることから、鉄道省のマークとしても使われていた。(いずれも海舞鶴線跡) 用地杭以外でも「工」の字が使われている旧い鉄道施設を目にすることがある。







画像4鉄道レールの断面形状

画像5糸魚川の煉瓦造機関車の褄壁(移設前)

画像6今は無き万世橋の交通博物館の展示

画像全はレールの断面であり、形状が「工」の字そのものである。画像らは大正元(1912)年の機関車庫の褄壁に付いていた「工」の字。画像らの交通博物館の展示において、「1870(明治3)に発足した工部省の旗印で、工の字をデザインしたもの。以来、このマークは国鉄のシンボルとして帽子、ボタンをはじめ車両や連絡船の煙突など、明治・大正・昭和の長期に渡り使われた。」と説明されている。

## 4. 「キレイなものはキレイ」

## 理事 小野 章 (会員 NO.9)

平成27年の日本人の海外渡航者数は1621万人という。多くは特に欧州のキレイな街や村を訪問している。またテレビの旅行番組では日常的に海外のキレイな街や村を観賞している。不思議なのは、これが日本人の街づくりにあまり影響を与えているように見えないことだ。街づくりの中で特段の効果が出ているように見えない。

欧州の街を歩いてみて気が付くのは、電柱や広告看板がほとんど見当たらないことである。花壇・公園の多寡などの問題ではなく、もっと根本的な共有景観への考え方が異なるようである。欧州の街のこの分野での美しさに学習する日本人があまりにも少ないのではないのか。 世界でも特に美意識の発達した日本人がなぜなのか。

日本の街の状態は、むしろ「東洋的雑居美」として評価したらどうか、などという見解もあるが、やはりキレイなものは世界の誰が見て もキレイである。近年、訪日外国人がとくに訪問したがるのは、大都会よりは、昔の景観を残した特定の山里や田園地帯などである。これ らの中に電柱や広告看板は極めて少ない。江戸期の雰囲気をウリとする倉敷・川越・高山・妻籠・金沢茶屋町・京都産寧坂界隈などは電線 が地中化され看板が規制されたことで入り込み客を増大させている。

京都市長の門川氏は、同市の姉妹都市(パリ・ボストン・ケルン・フィレンツェなど)を訪問する中で、日本の都市の景観について根本的に認識を改めたのだと思われる。また、各国から観光客が殺到する京都の行政のトップならば、景観に関する率直な意見をいわほど聞かされることと推測する。門川氏が執念で進める屋外広告物条例や無電柱化推進計画は、そのような確信なしては考えられない。

英国ポーツマス市の市長を京都の耐園界開始策に案内したことがある。彼は耐園の街の情緒は分かったようであったが、顔をしかめながら頭上の蜘蛛の巣のような電線を指差して、これらは何とかならないのか、と言われたことを記憶している(その後この地域の電線は地中化されつつある)。

さて舞鶴を考えると、観光客が集中して訪れる赤れんがパークと周辺についてだけでも、電線地中化を検討していただきたいと願っている。



イギリス ポーツマス市 [Portsmouth-guide.co]



ドイツ リューベック市 [touropia.com]

前述の今年10月に計画している「ドイツ7日間の旅」について、その趣旨・目的に触れたいと思います。

旅の目的の一つは、舞鶴の赤煉瓦の保存活動に厚みを増した重要施設、神崎に現存する「ホフマン窯(輪環窯)」の存在です。昭和30年には全国に57基(日本窯業大観によると50基)のホフマン窯があったが、生産効率化のため徐々に解体され、今では日本で4基のみ残り稼働中の物は無い。一方、発明者フリードリッヒ・エドワルド・ホフマンさんの故郷・ドイツでは今も多くのホフマン窯で煉瓦製造がおこなわれていると聞く。平成2年に神崎コンクリート工場内でホフマン窯を発見して以来、永年の夢であった本場ドイツのホフマン窯の視察を計画したのである。

二つ目は、旧東ドイツのロストック市訪問である。発端は、当法人が赤煉瓦建物を指定管理していた2008(h20)年に自主企画した「2008 アートレインボープロジェクト」による。これは京都市東山の京都藝際交流協会と共催したイベントで、日本とドイツの芸術文化交流を目的とし、2004年に始まりドイツと日本で交互に展覧会を開催しているものであった。ドイツから12名の選抜作家が来日し、大阪成蹊大学に7名が、舞鶴赤煉瓦にて5名がそれぞれ滞在し作品を制作し公開展示したのである。それが縁となり、翌2009年の赤煉瓦ジャズ祭にドイツから「The Pasternack Swing Trio」を招聘し好評であった。また、2010年にはロストックの仲介で、ドイツシュベリンにジャズユニット(おぬきのりこ、野中英三、出口誠)が招待され、各地で演奏し好評で博した。このような縁で交流が継続している。バルト海に面した港町ロストック市はそれ以来、京都市との文化芸術交流を進める一方、同、港町舞鶴との交流を熱望している。この視察旅行を契機として更なる交流を深めたいと考えている。

今回は、ロストックに招待される日本の作家たちと一緒に出かけるもので、添乗員も同行するため安心して旅ができるものと思っています。 この旅の趣旨に賛同され、同行を希望される方があればお知らせください。



2008年 文化公園体育館で柔道見学体験



2008年 智恵蔵で作品制作風景



2009年赤煉瓦ジャズ祭前夜に市民と交流

現パーク2号棟 喫茶 jazz にてジャムセッション

5. そ の 他 編集後記

事務局

#### 編集後記

東日本大震災からまる5年、まだまだ震災地では復興が見える形にまで進展していないようである。

震災直後から舞鶴の陶芸家高井晴美さんの呼びかけで始まった陸前高田市への毎年10月の大型バスでの支援活動が継続されている。私もこれまで3度同行しているが、今年も同行を予定している。毎回、市民有志から寄せられたお米約1.4トンと募金を、仮設住宅や小学校、幼稚園を訪ね届けている。それだけではない。帰りのバスには、市民から事前に注文を受け予約しておいた仮設店舗に立ち寄り、当地のお酒・板昆布・ケーキなど大量に持ち帰り、生産者を支援している。また、リンゴの収穫期やホタテガイの漁期には、取り寄せて支援をするなどしている。また、他の市民団体も支援活動を継続していると聞く。頭が下がる思いである。 半面、復興が早く終わり、被災者が元の生活を取戻し、このような活動が無くなるのを願っている。

このような中、4月14日に突然起こった熊本地震は、東日本大震災とは異なる甚大な地震で、余震なのか本震なのか誰にも予測できない状況が続いている。報道で伝えられる家屋の倒壊・道路や鉄道などの被害は甚大・広範囲で、被災者のこれからの生活を考えると胸が痛くなる。 今後、当法人でどのような支援ができるか検討したい。(H.B)

会員資格: 会費納入者(特別会員は除く)。入会金1,000円、年会費(個人2,000円、法人10,000円)。

なお、会員申込用紙は、ホームページからダウンロードできます。
ご寄附も受け付けています。

会費・寄付金等 振込先: ゆうちょ銀行 口座番号 (01010-6-21476) 加入者名: 赤煉瓦倶楽部舞鶴